

今年度は「パーソン・センタード・ケア」をテーマに取り組みます。

令和3年度 みょうこう ケアフォーラム

通信



令和3年度 第2回みょうこうケアフォーラム を開催しました！

- 日 時：令和4年3月3日(木)18時30分～20時00分
- 会 場：オンライン開催・妙高市役所
- 参加者：33名(介護ネットワーク事業所、医療機関、薬局、福祉用具事業所等)

概要

今回は、前回の学びである『パーソン・センタード・ケア』の学びをさらに深め、より実践的な学びにつなげるため、妙高市社会福祉協議会の主任介護支援専門員である宮越まち子さんから、認知症のご本人とその家族への支援について事例発表をしていただきました。

前回同様のオンライン開催でしたが、和気あいあいとした雰囲気の中で意見交換が行われ、どのグループも中身の濃いグループワークの時間となりました。

実施後アンケートでは、参加者のほとんどが「日頃の支援を振り返る機会になった」「フォーラム内容に満足した」と回答しており、対人援助職としての大切な考え方を深く学ぶことができました。

事例発表

テーマ 「パーソン・センタード・ケアの学びを深める
～事例を通して、パーソン・センタード・ケアを考える～」

《発表者》 妙高市社会福祉協議会 [主任介護支援専門員] 宮越 まち子さん
妙高市地域包括支援センター [保健師] 山崎 名歩子

介護サービスの利用を拒否していた認知症のあるご本人、介護による疲労感が大きく、本人にサービスを利用して欲しいと考えている家族の事例を通し、支援当初から現在にかけてどのように支援が変わっていったか。介護支援専門員としての支援中の気持ちやご本人・家族の反応について振り返り、パーソン・センタード・ケアをより実践的に学びました。

- 支援当初は、何を提案しても拒否されていた。
⇒ご本人を介護サービスを利用しない困った人と捉えていた。
- 主治医への相談を通して、ご本人と家族を切り離し、それぞれの思いや人生観を理解しようと心がけるようになった。
⇒ご本人に対しての『困った人』というフィルターが外れ、そのままのご本人をアセスメントできるようになった。
- ご本人が気持ち良いと思える支援を意識した。
⇒パーソン・センタード・ケアの5つの花びらを満たす支援に変化!
⇒支援当初、ご本人に拒否された入浴介助を受け入れてもらえた。継続的な介護サービスの利用につながった。



何を求めているのか：心理的ニーズ

G W

5グループに分かれ、実体験の共有と自分の職種の立場でどのようにパーソン・センタード・ケアを活かしていけるか考え、発表しました。



対人援助職としての大切な考え方を深めると同時に、普段、直接顔を合わせることの少ない職種間での交流を楽しむことができました！

- ・最初からサービスの利用ありきではなく、ご本人・家族の話を傾聴しながらゆっくり支援したい。
- ・真摯に向き合えば、相手も応えて下さるという言葉が胸に響いた。
- ・その人によってできることは違うので、ご本人の状況を見ながら判断している。支援者ができないと思い込んでいたことでも、実はできていることがある。ご本人の生活をよくみるように心がけている。
- ・住宅改修は、愛着のあるお家にはじめて行く業者が手を付けるので嫌がられることが多い。ご本人が大事にしてきた家に対する思い、お話を傾聴しながら、改修の話を進めていくよう心がけている。

まとめ

私たちは相互に影響しあっている。

グループワーク終了後は、実行委員会の揚石先生からまとめていただきました。



[認知症ケア・支援の基本]

■基本的な姿勢

・認知症という病に関わるのではなく、Aさんを診る（看る）ことが大切。Aさんにはたまたま認知症がある。

■パーソン・フット

・周囲が「一人の人として認めていますよ。」ということではなく、ご本人が認められていると実感していることが大切。

・支援者と対象者は相互関係にある。相互に思いやり、信頼しあう関係を構築すると、支援者が自信をもらったり、力をもらうことがある。一方的に与える関係性ではない。

■社会心理

・私たちは悪意なく、無意識なレッテル付けをしてしまうことがある。

例) 認知症があるからこの方に何を言っても伝わらないだろう。家族にだけ話をしておこう。

・認知症の有無に関わらず、人として認めあう姿勢で接することで、相手の反応も変わる。

■VIPS

・一方的に与えているのではなく、お互いに影響し支え合っているという考え方は、認知症ケアに限らず、あらゆる場面、専門職間においても重要。それぞれの職種の価値を認め、考えを尊重し、その人の視点に立って、お互いに支え合いチームとして仕事をしていきましょう。



参加者アンケートでは…

- ・宮越さんのお仕事や人と関わることに對する姿勢に感動した。
- ・その方が輝いていた時代の話をたくさん聴き、ご本人の大切にしていることや考えに触れ、ご本人が望む過ごし方ができるよう支援したい。

等、様々なお声をいただきました。

今年度最後のケアフォーラムでした。

妙高市というチーム一体となって、さらに向上していけるよう、次年度のみようこうケアフォーラムを企画していきます。どうぞお楽しみに！